

王子公園再整備にかかる大学設置・運営事業  
審査講評

令和5年6月

王子公園再整備にかかる大学設置・運営事業者選考委員会

王子公園再整備にかかる大学設置・運営事業者選考委員会（以下「選考委員会」という。）は、王子公園再整備にかかる大学設置・運営事業者公募（以下「本公募」という。）に関して、「王子公園再整備にかかる大学設置・運営事業者公募要項（令和4年12月21日公表）」P12に記載の「Ⅲ. 6. 審査項目及び配点」に基づき、提案内容の審査を行ったため、審査講評を報告します。

令和5年6月9日

王子公園再整備にかかる大学設置・運営事業者選考委員会

# 目次

1. 選考委員会	1
2. 審査方針	2
3. 審査結果	2
4. 審査講評	4
5. 附帯意見	6

## 1. 選考委員会

### (1) 選考委員会の構成

選考委員会は、学識経験者や有識者など、下記のメンバーで構成している。委員名は優先交渉権者決定までは非公表とし、審査に関する働きかけを行うなど、委員に対して、本公募に関する不正な接触の事実が認められた場合は、参加資格を失うこととしている。また、選考委員会は非公開で行った。

委員長	嘉名 光市	大阪公立大学大学院	教授
委員	大槻 達也	桜美林大学大学院	教授
委員	杉岡 秀紀	福知山公立大学	准教授
委員	綴木 公子	さくら萌和有限責任監査法人	公認会計士
委員	藤本 英子	京都市立芸術大学	教授
委員	松下 佳代	京都大学大学院	教授
委員	和田 真理子	兵庫県立大学	准教授

(敬称略、委員長を除き 50 音順)

### (2) 選考委員会の開催日程及び議題

選考委員会は以下の日程で開催し、審議を行った。

第1回	令和4年12月16日	・委員長の選任 ・公募要項及び審査基準の決定等
第2回	令和5年6月9日	・応募者からのプレゼンテーション及び質疑応答 ・提案内容を審査基準に基づき評価・審査 ・審査講評の検討等

## 2. 審査方針

本公募の優先交渉権者の決定にあたっては、大学の運営実績や安定性・継続性だけでなく、地域経済への波及効果、地域への貢献、王子公園周辺地域の歴史・文化や周辺環境と調和した施設整備計画等の要件を満たす提案が求められるため、公募対象地に大学を設置しようとする者からの事業提案を広く求め、提出された事業実施計画提案書の内容（以下「提案内容」という。）によって優先交渉権者を決定する公募型プロポーザル方式が採用されている。

また、審査は応募者が資格要件を満たし、欠格事由に該当しないことを確認した上で、提出された事業実施計画提案書と応募者によるプレゼンテーション及び質疑応答の内容を含めて審査を行った。

## 3. 審査結果

提案審査では、応募者の提案内容を審査した。

### ① 提案内容に関するプレゼンテーション及び質疑応答

選考委員会は、令和5年6月9日に、応募者よりプレゼンテーションを受け、提案内容に関する質疑を行った。

### ② 提案内容の審査の実施

選考委員会は、応募者からのプレゼンテーションと質疑応答の後、委員間で議論を行い、提案内容の審査を行った。

審査は「王子公園再整備にかかる大学設置・運営事業者公募要項」に定める審査のポイントに基づき実施し、審査項目毎に各委員の平均点の小数点第2位を有効桁数とし、小数点第3位を四捨五入して算出した。なお、審査の結果、合計点の6割を超える応募者がいない場合は、「適格な事業者なし」とすることとしていた。

応募者の審査結果は以下のとおり。

審査項目	主な評価項目	配点	応募者
大学運営 (教育・研究等)	運営方針、運営体制、人材育成等	200点	161.14点
地域経済	地元企業の活性化、都市ブランドの向上、起業・創業や雇用の創出、経済波及効果等	100点	76.56点
地域貢献	教育・研究成果の社会への還元、地域との関わり、学術・文化拠点としての機能強化、学び直しの機会の提供	100点	76.13点
都市計画・景観等	歴史・文化や周辺環境との調和、王子公園との一体性、地域に開かれた大学、防災機能の提供等	100点	81.00点
安定性・継続性 (財務・会計)	資金計画、収支計画、維持管理計画	100点	84.57点
合計		600点	479.40点

応募者の評価点は479.40点で、合計点の6割を超えるため、学校法人関西学院を優先交渉権者の候補者として選考した。

審査項目毎の主な審査のポイントは下記のとおり(公募要項P12「Ⅲ. 6. 審査項目及び配点」より)

審査項目	主な審査のポイント	配点
I. 大学運営 (教育・研究等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上位計画、基本方針をふまえ、大学としての教育理念、運営方針について、公募対象地での事業展開を含めて提案がなされているか。大学運営に関する実績は評価できる内容か。</li> <li>・大学規模(学生数・教職員数)及び組織体制など大学運営体制は適切か。また、学生の募集方針・計画は適切か。</li> <li>・大学の設置や取り組みが、市内の若年層の定住・交流人口の増加に寄与するか。</li> <li>・教育や研究にかかるカリキュラム等に独自性や先駆性があり、国際性や多様性をもった優秀な人材を確保・育成・輩出できる提案となっているか。</li> <li>・上記以外の自由提案。</li> </ul>	200点
II. 地域経済	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産学連携などによる地元企業の成長・活性化に寄与する提案となっているか。</li> <li>・企業等との連携により、国際性・多様性の創出による都市ブランドの向上に資する提案となっているか。</li> <li>・スタートアップの創業・成長促進のための支援策の充実など起業・創業の促進や新たな雇用の創出などに資する提案となっているか。</li> <li>・大学が立地することによる地域経済への波及効果は見込めるか。</li> <li>・上記以外の自由提案。</li> </ul>	100点
III. 地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGsの達成に資する活動など教育・研究成果を広く社会に還元することにより、社会の発展に寄与する提案となっているか。</li> <li>・地域の賑わいづくり及び学生と地域住民の間の良好な関係の構築に資する提案となっているか。</li> <li>・周辺の教育・文化施設との連携による学術・文化拠点としての機能強化に資する提案となっているか。</li> <li>・リスケリングやリカレント教育など市民に対し学び直しの機会を提供する提案となっているか。</li> <li>・上記以外の自由提案。</li> </ul>	100点
IV. 都市計画 ・景観等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・王子公園周辺エリアの歴史・文化、六甲山の山並みといった周辺環境との調和や、既存樹木の保全など新たな「原田の森」の創造に資する整備計画となっているか。</li> <li>・緑の広場等との一体的で開放された空間を意識し、王子公園との回遊性の確保に配慮した整備計画となっているか。</li> <li>・市民が憩い、集える空間の創出や、図書館などの大学施設の一般開放により、地域に開かれた大学と呼ぶにふさわしい整備計画となっているか。</li> <li>・王子公園の広域防災拠点としての役割を踏まえ、積極的かつ適切な防災機能が計画されているか。</li> <li>・上記以外の自由提案。</li> </ul>	100点
V. 安定性・継続性 (財務・会計)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・財務状況が健全で、事業実施計画提案の実現可能性が高いか。</li> <li>・資金・収支計画が妥当であり、将来にわたって持続可能な計画となっているか。</li> <li>・維持管理計画が妥当であり、収支計画に適切に反映されているか。</li> </ul>	100点
計		600点

## 4. 審査講評

本事業は、施設の老朽化や利便性の高い文教エリアのポテンシャルを活かせていないといった課題を抱える王子公園の再整備に際し、文教都市・神戸としての地位を高め、王子公園周辺エリアの「新たな価値」を創出するために、国際性や多様性を高める大学の誘致を行うものである。提案にあたっては、「教育」「研究」「社会貢献」という3つの使命を果たしつつ、王子公園周辺エリアの持つ歴史と文化を尊重するとともに、阪神間を代表する学術・文化拠点のシンボルとして、地域と共に成長し、地域活力の醸成や定住人口・関係人口の創出など持続可能な地域社会の形成に貢献する、地域そして世界に開かれた大学が求められるところである。

今回、本公募に対して提案をいただいた応募者から、学校法人としての豊富な実績・経験に基づき、市が求める大学像や役割を理解した上で、限られたスケジュールの中で、質の高い、意欲的な提案をいただいたことについて、選考委員会として感謝を示したい。

提出された事業実施計画提案書は、現代の複雑な課題に対して新たな価値を自ら生み出す人材の育成・輩出や、アントレプレナーシップの養成による起業・創業への寄与、学びを通じた地域や人々とのつながりの創出、教育・研究成果の地域への還元について意欲的な提案がなされている。また、複数の大学施設を市民開放している点、グラウンドレベルを全て一般開放し、多様な回遊動線を創造することにより王子公園との一体性を持ったキャンパス計画となっている点や、公募対象地の高低差をうまく処理し、六甲山の山並みの景観に配慮した空間計画、新たな原田の森の創造に資する植栽計画となっている点を高く評価した。

以下に、審査項目毎の評価を示す。

### (1) 大学運営（教育・研究等）

- ・ 応募者の大学運営の実績は十分に評価できる。
- ・ 4,000人規模の大学の設置は神戸市の大学生の増加に大きく寄与し、評価できる。
- ・ 現代の複雑な課題に対応し、新たな価値を自ら生み出す人材を育成する点が評価できる。
- ・ 提案されたカリキュラムは神戸市の特徴である国際性や多様性との親和性が高く、アントレプレナーシップの養成を通じたイノベーション人材の輩出の取組は、デザイン都市・神戸の基本理念との親和性が高い。
- ・ 実践的な産官学民連携等を掲げ、地域・社会・世界の様々な人が行き交うプラットフォームキャンパスというコンセプトは意欲的な内容である。実現に向けて、カリキュラムの具体化や実践的学位プログラムの編成が求められる。

### (2) 地域経済

- ・ イノベーションエコシステムに注目した点は大いに評価できる。産業構造の転換が遅れている神戸市において、ゲームチェンジャーになることを期待したい。
- ・ 今後具体的な検討は必要であるが、施設整備段階での市内企業の活用や、キャンパス内での市内事業者の出店の促進や市内食材の積極的な活用に関する提案がされている。
- ・ 留学生の獲得による国際性や多様性の創出、豊富な実績に基づく王子キャンパスでの国際社会貢献活動の展開は、グローバル貢献都市・神戸の都市ブランドの向上に資するものであると評価できる。それらが地域社会に好循環をもたらすよう、留学生と地域社会との関係構築に向けた取組が行われることを期待したい。
- ・ 大学での学びを通してアントレプレナーシップの養成を図る提案がなされている点は評価できる。一方で、イノベーションの創出に向けた人的リソースやスペースが十分に確保されるのか懸念される。
- ・ 4,000人規模の大学の立地により学生や教職員の消費喚起による経済効果が期待できる。

### (3) 地域貢献

- ・ カリキュラムによる教育・研究の成果の社会への還元には期待が持てるが、その成果が広域だけでなく周辺地域にも還元されるような制度設計となるよう期待したい。
- ・ また、産官学民連携やカリキュラムの実施にあたっては、連携相手の探索、きめ細かなマッチングにおいて十分なサポート体制が求められるため、より充実した人員体制が必要であると思われる。
- ・ 既存キャンパスでの取組の他、大学以外にも幼稚園から高等部までを持つ強みを生かして周辺の教育機関と連携していただくことが期待できる。
- ・ 学びの機会の提供にあたり、多様なニーズに応じたプログラムを検討している点は評価できるが、具体的なプログラムが示されていない点が懸念されるため、神戸における新たなリカレント・リスキングの拠点とするとともに、社会人や市民、企業のニーズに応え、今までにない「神戸モデル」として魅力的なプログラムが提供されることを期待したい。

### (4) 都市計画・景観等

- ・ グラウンドレベルでの緑化は十分に行われている。建物にも適切に緑を配置しており、六甲山の山並みを活かしている。また、地域の自然植生に配慮した植栽計画が提案されている点が評価できる。施設計画の具体化にあたっては、背後の緑豊かな山並みや周辺環境と調和するよう、景観形成に十分配慮していただきたい。
- ・ 高低差をうまく処理しており、学生と公園利用者が大学と公園の境界を意識することなく過ごせるよう、多様な通り抜け動線、回遊動線が確保されている点が評価できる。
- ・ グラウンドレベルを全て一般開放している点や、レストランや図書館、テラス等の複数の大学施設を市民開放している点は評価できる。4,000人の学生と周辺住民がゆとりをもって滞在できる施設計画となることを期待したい。
- ・ 災害時の大学関係者の安全確保及び避難場所や防災設備を整備する点や、オープンスペースを確保している点は評価できる。周辺住民に対する防災機能の具体化にあたっては、王子公園との連携や役割分担について、しっかりと神戸市と協議しながら検討することが求められる。

### (5) 安定性・継続性（財務・会計）

- ・ 短期・中期の法人の財務状態において、問題の発生する危険性は低い。
- ・ 本事業の実施にあたって借入を行う見込みであるが、借入金の返済にあたり、財務的に耐えられる資産を有していると判断できる。
- ・ キャンパス単体での収支計画では、借入金の返済に約30年間を要するものの、法人全体における収支については安定しており問題ない。



## 5. 附帯意見

- ・新たに設置する産官学民連携の窓口となる組織の具体化に当たっては、提案にある「地域・社会・世界が入ってくる学びを提供するキャンパス」の実現に向けて、地域との関係を重視して検討を深めていただきたい。
- ・アントレプレナーシップの養成を通じたイノベーション人材の輩出等の実現に向けて、カリキュラムの具体化と既存の学位プログラムの体系的な整理を行う等、事業実施計画の深度化を図っていただきたい。
- ・施設計画の具体化にあたっては、イノベーションエコシステムの構築・発展の基礎となる「人」と「情報」が有機的に結びつき、直接イノベーションに繋がるスペースが十分に確保されるよう、学内だけでなく、近隣施設の利用も含めて検討していただきたい。
- ・想定しているカリキュラムの提供や産官学民連携、創業支援を行うにあたり、教員や学生の個人的なネットワークだけに依存せず、十分なサポートを行うことのできる体制を整えるよう、検討をすすめていただきたい。
- ・新たな「原田の森」の創造に向けて、応募者の開学の地であるという強みを生かして、大学の敷地に限らず、地域住民との連携や周辺施設の活用など、エリア全体のまちづくりに主体的に取り組んでいただきたい。
- ・立地特性を活かし、社会人や市民、企業の多様な学びのニーズに応えるリカレント・リスキリングプログラムの検討・具体化をすすめていただきたい。
- ・建物の色彩や建物への緑の配置の検討の具体化をすすめ、圧迫感を軽減するとともに、六甲山の山並みや周辺環境に配慮した施設計画となるよう取り組んでいただきたい。
- ・今後、整備計画の具体化を進めるにあたり、駅前や緑の広場など主要な視点場からの景観や眺望にも配慮していただきたい。
- ・周辺住民に対する防災機能の具体化にあたっては、王子公園との連携や役割分担について、しっかりと神戸市と協議しながら検討を深めていただきたい。
- ・施設整備段階や運営段階での地域からの意見聞き取りや調整の方法、土地の引渡し時期や開校までのスケジュール等、今後の神戸市との協議事項に対し、主体的な検討・提案を行った上で、円滑な事業実施に努めること。